

つねに時代の先へ新技術と新発想でお応えいたします!

社員一同 本年も宜しくお願いいたします



人に、地球に、やさしい
 再生可能な「循環型杭工法」

実践に強い! 貫入性能No.1



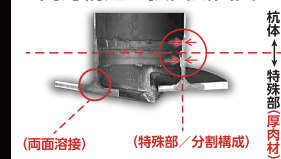
建築・土木・鉄道、さまざまな場面で活躍しております。

全ての鍵は杭先端にあり

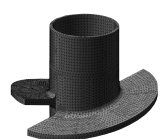
杭基礎は建物荷重を支持地盤へ伝達させる最も重要な役割であり、故に、杭先端拡翼部の貫入(掘削)性、変位・変形・破断などを発生させない高い性能が要求されます。

- 貫入性の問題を・・・「**菱型穴**」により解決しました。
- 拡翼変形の問題を・・・「**特殊部**」により解決しました。
- コストの問題を・・・「**自社施工**」により解決しました。

■ 高力構造 / 拡翼断面図



■ FEM解析図



🔍 e-pile

検索



国土交通省は29年度より、2級土木施工管理技術検定(種別「土木」)と2級建築施工管理技術検定(種別「建築」)の学科試験をこれまでの年1回から年2回の実施に変更することとし、技術検定の受験機会を拡大すると発表しました。

国土交通省は、建設工事の施工技術の向上を図るため、建設業法に基づき技術検定を行っています。この技術検定合格者は、建設業者が建設工事を行う際に設置が必要となる主任技術者等になることができます。近年、若年層の入職者が大幅に減少し、合格者の高齢化が進んでいます。【2級土木(学科)合格者の平均年齢:28.2歳(13年度)→32.8歳(27年度)】こうした現状を踏まえ、「土木」・「建築」について、学科試験の年2回化を先行的に実施することとしています。

○2級土木施工管理技術検定(種別「土木」)

(1回目)	(2回目)
・試験日:平成29年10月	・試験日:平成30年2月
・申込受付:平成29年4月頃	・申込受付:平成29年12月頃
・合格発表:平成29年12月	・合格発表:平成30年3月

※平成29年度については、初年度のため、過渡的な日程となります。
 平成30年度以降は、1回目の試験日は6月頃、2回目の試験日は11月頃を予定しています。

○2級建築施工管理技術検定(種別「建築」)

(1回目)	(2回目)
・試験日:平成29年6月	・試験日:平成29年11月
・申込受付:平成29年3月頃	・申込受付:平成29年7月頃
・合格発表:平成29年7月	・合格発表:平成30年1月

※平成30年度以降も、当面、同様の日程を予定しています。

詳細は、国土交通省のホームページをご覧ください。

ワンポイント 健康コラム あなたは寒がりですか?

どんどん気温が下がり、寒くなってきましたね。突然ですが、あなたは寒がりですか?寒がりではないですか?なぜこのような差が生まれるのでしょうか。

寒がりかどうかは、「筋肉量」に左右されます。人は筋肉を動かすことによって熱を作り出し、筋肉の量が多いほど基礎代謝が高くなるのです。男性の方が女性より暑がりだというのは、それは筋肉量が原因だったのですね。

このことから、寒がりを克服するには、基礎代謝を上げる=筋肉量を増やすことが重要だということが分かってきます。ではどのように筋肉量を増やせばいいのでしょうか。基礎代謝を効率的に上げるには、「インナーマッスル」を鍛えるのが良いといわれています。



インナーマッスルとは

股関節や肩関節といった体の深層部にある筋肉の事で腹筋や腕立て伏せといった運動では鍛える事が出来ません。

メリット

インナーマッスルを鍛えると基礎代謝はもちろん、バランス感覚が良くなったり、持久力が付いたりします。

鍛え方

インナーマッスルは、有酸素運動で鍛える事が出来ます。ランニングや水泳なら30分間を2日に1回ですが、毎日の生活の中でも鍛えることは出来ます。

- ・テレビを見ながらお尻で歩く
 - ・ボールを足の間に挟みながら料理をする
 - ・電車でつり革を持たずにバランスをとる
- この3つなら日々の生活の中でも出来そうですね。



これから訪れる厳しい寒さを克服してこの冬を乗り切りましょう!

経理マンが行く 火事の原因と対策

いよいよ新年の幕開けとなりました。2016年は悲惨な事件や震災が多かったように思います。先日起きた新潟県糸川市の大規模な火災は、同市のラーメン店の男性店主(72)が鍋を空だきしたことが火災の原因だった可能性があること県警糸川署が発表しました。焼損家屋は約150棟に増え、延焼面積は約4万平方メートルに上りました。新潟県の米山知事は同日、火災現場を視察し「これから始まり。被災者の生活再建に取り組みなければいけない」と述べ、県の生活再建支援チームを派遣することを明らかに被災者の生活再建に向け、公営住宅や民間の借り上げなどで住まいを確保すると約束しました。市によると、新たに消防団員6人が煙の影響による目の痛みを訴え、負傷者は住民2人を含む計11人。死亡者が出なっただけでも不幸中の幸いでした。火は風を起こすと言われ、一端火が出ると風にあおられて火が炎となり、瞬間に燃え広がります。さてこのおそろしい火事、いったい日本では年間どれくらいの件数が起きているのでしょうか?総務省消防庁が公表した平成27年版消防白書によると、出火件数は年間39,111件、火事の種別としては建物火災、車両火災、林野火災、船舶火災、航空機火災、その他という結果になっているようです。その原因は以下のランキングの通りとなっています。

- 1位 放火..... 全火災の10.3%(4,033件)を占め、18年連続して出火原因の第1位となっている。
- 2位 たばこの不始末... たばこによる火災は3,638件で、全火災の9.3%を占めている。
- 3位 コンロ..... 3,497件で全火災の8.9%を占めている。種類別では、ガスコンロによる火災が最も多い(4,248件)。
- 4位 放火の疑い..... 放火の疑いによる火災は2,469件で、これに放火を加えると6,502件(全火災の16.6%)となる。

ではどのように予防対策をすればいいのでしょうか。“火災保険と地震保険”のホームページを参考に、上記の各原因について予防策をご紹介します。

【放火対策】...家の周りに燃えやすいものを置かない。とくに道路に面した軒裏などに積まれた古雑誌や古新聞などは狙われやすく、自動車やバイクなどのカバーも要注意です。カバーには防炎製品を使用する事を推奨しています。

【コンロ対策】...コンロで最も危険なのが油を使って揚げ物をつくっている時とされていて、火を使用している時には絶対に目を離さないこと。また、幼い子どもがいる家庭では元栓を開けておく。

【たばこ対策】...たばこの火は小さいが、寝具やカーテン・衣類などが燃えるのには十分な強さを持っているので、火が消えたのをきちんと確認する。特に寝たばこはより注意が必要。灰皿に水を溜めておくのも有効的です。

放火による火事などは、その被害を最小限にするために、個々で対策できることは地域も含め取り組まなければならないと思います。乾燥しているうえに火を使う事が多くなる季節です。悲惨な事故にならないよう、十分に火の元には気をつけましょう。